

一般社団法人 大学コンソーシアム熊本
令和3年度第2回教育のあり方に関する協議会議事要録

- 1 日時 令和3年11月25日(木) 10時00分から11時30分
- 2 場所 オンライン (Zoomによる) 及び熊本大学社会連携課
- 3 講師 木下統晴 (一般財団法人化学及血清療法研究所理事長)
出席者 瀬崎正治 (九看大)、北村敏夫 (九州ルーテル大)、西村明博 (学園大)、三浦幸輔 (県技大)、堤裕昭 (県立大)、千葉直樹 (熊本高専)、甲斐広文 (熊本大、企画・運営委員長)、河瀬晴夫 (熊保大)、岡原安利 (尚綱大)、長島宏一 (崇城大学)、橋本成人 (東海大)、中川浩 (中九短)、高橋知里 (熊本県)、須藤雄大 (熊本市)、宇佐川毅 (教員免許状更新講習・教員養成等事業部会長)、重岡忠希 (熊本県教委)、芥川奈緒美 (天草市役所)、竹屋元裕 (熊保大)、渡辺雄一 (熊保大)、渡邊淳子 (熊保大)、今村修 (熊保大)、勝木康子 (熊保大)、久保田憲寿 (熊保大)、植田健斗 (熊保大)、平川文丈 (熊保大)、松村加奈子 (熊本県教委)、井上朋美 (熊本県教委) 広渡純子 (九州ルーテル大)
陪席者 清永政治 (熊本大)、大谷眞理 (熊本大)、久米田将典 (熊本県)
事務局 松村健史 (事務局長)、野口正明 (次長)

4 講演

- (1) 議長 (企画・運営委員長) より講演の前に以下の発言があった。

この協議会の構成員について、企画・運営委員会委員のほか、今回からは熊本県教育委員会高等教育課からも正式メンバーとしてご参加頂くことになった。

なお、9月に開催された、企画・運営委員会において、この「教育のあり方に関する協議会」で平成30年に文部科学省の中央教育審議会から答申のあった「2040年に向けた高等教育のグランドデザイン」に関する意見交換を行うことが決定しており、グランドデザインに関する協議も行っていきたい。また、今回もメンバー以外にも参加希望のあった方に視聴いただいている。

本日は、最初に、化学及血清療法研究所の木下理事長から講演いただき、その後、意見交換を行う予定である。質問については、講演のあとに時間を設けたい。

- (2) 講演「自然・健康・文化・サイエンス熊本構想」

一般財団法人血清及化学療法理事長 木下統晴氏から講演があった。

この後、以下の質疑応答があった。

(議長) 大学コンソーシアム熊本の存在意義というものを、考えなければならないということを多くの方々も感じたと思うが、皆さんのご意見・ご質問をお願いしたい。

(質問) 講演の中で、特区というお話がでたが、どういったものが特区にあたるのか教えてほしい。

(回答) これからの医療は超高度医療と予防に二極化していくと思う。その二極化した時に、病院での医療だけでなく、予防に関する分野にも資金が回って光が当たるようにして欲しいと考えている。

(議長) 天草市の大学誘致構想について、市長以下、構想を立てているところとお聞きしているので、大学コンソーシアム熊本としても知恵を出して協力していけたらと考えている。

(議長) 県外から来られた方は皆、上通、下通の規模や繁栄している様子を見て感銘を受ける。他の地域にはない大きな財産であり、熊本に住んでいる人にとっては当たり前の光景だが外の人からみ

ると、違ってみえる光景である。そのアーケード街を、健康のためのウォーキングのストリートとして活用し、それが健康にも地域の発展にも繋がるという発想は今までもなかったと思う。実際にアーケード街をどう利用するかを考えているが、例えば熊本保健科学大学が中心となって利用方法を考えていただく、現在でもイベントは行われているが、その他、ウォーキングストリートにして利用して歩いた距離に応じて割引きしてもらえとか、大学コンソーシアム熊本の中で知恵を出し合っていくのも一つのトピックかなと思う。

(木下) 商工会との連携をきちんと行っていくことが大事かなと思っている。ウォーキングする時に困るのはトイレがどこにあるのかなど、そういった時、利用マップを作るなどが考えられる。また熊本では火の国まつりなどイベントの後にゴミがあまり落ちていない、放置自転車が殆どないなど、そういういい点を見て熊本を造っていくというのは大事なことだと思う。街づくりで今問題なのは、道である。車椅子での通勤の方をいつもみているが、とても苦労されている。ユニバーサルデザインの視点から優しい街にするには道路関係を整備していくことが必要と思っている。

(議長) 大学のミッションは、サイエンスベースで人材育成あつての社会貢献であり存在意義だと言える。海外を見ても大学の街というのは文化的で凄く落ち着いていて暮らしやすい街である。大学が多くある街というのは本当にそういうイメージがある。そういう意味でも、大学コンソーシアム熊本が、大学のそれぞれの良さを認め合い、融合させ、特色を生み出していくことが、そこに住んでいる人たちにも還元されて、それが一つのモデルとなって日本だけでなく海外の都市計画にも繋がっていく。これが、本日の講演のK S L構想である。

このもとになったP S Lは、フランスのパリの、広い意味で、大学だけでなく、美術館、博物館等、地域の文化的な施設も含めた大枠を一つのコンソーシアムとして考えたものである。例えば、学生が興味をもった博物館で勉強して、それも大学の卒業単位に認めるといったスキームがP S Lにはあり、P S Lの大学ランキングもかなりトップの方になっている。個々の大学で高い評価を受けるのは難しいが、総合力で評価を得るということで、熊本で言えば水俣の研究所といった多様な施設を活用し、人材育成を行うということが今回の講演のキーポイントと思う。

(意見：県立大/堤) 熊本県立大学としては、スローガンとして「地域に生きる」ということをうたっている。熊本大学のように他地域からの学生が多い場合と違い、熊本県立大学の場合、熊本県内からの入学が7割を占め、卒業生のうち6割が県内、2割が九州内に就職する。その動きの中で地域に貢献できる人材を育成するというのが大学としても目指すところであるし、県立大学の教育の方向性の基盤になっているが、地域にどれだけ貢献できる人材を育成するかという問題において、それは時代によって変わってくるので、時代に対応し、変化を敏感にとらえながら教育の中身を変えていく必要があるのではと考えている。

(議長) 確かに、熊本県立大学には地域の優秀な人材が集積していくという大きな特色があると思う。そういう面で熊本地域の将来を担う重要なアカデミアとしての大きな役割を果たしていると思うし、そういった人材が他大学の授業を聴講したり、県内の他大学の教員の研究に携わったりした人材が県内に残っていく、そういった意味からも県立大学の教育にコンソの中でも関わっていけるような仕組みができればいいかなと考えている。

(木下) 国立水俣病総合研究センターは大変素晴らしい研究所ときいているが、現在、熊本保健科学大学でも化血研と共同研究講座を一つ組んでいるが、その中で、国立感染症研究所の元室長の方を招聘しているが、そのルートで国立感染症研究所との連携大学院も作ることもできるという形になっているので、そこで水俣で勉強するということができれば人材を伸ばしていくことができるかなと思う。

(議長) 国立水俣病総合研究センターに海外の留学生を連れて行くと、留学生からの話として、やはり、今なお海外、特にアフリカの鉱山の水銀中毒の問題が起こっている。また、カンボジアの学生を連れて行った時は、東南アジアの廃棄物がカンボジアに廃棄されていることや、その廃棄物による水銀等の重金属汚染の健康被害が起こっていることを、カンボジアの学生から、その国立水俣病総合研究センター内で聞いたことがあり、やはり、国立水俣病総合研究センターの位置づけというのは国際的な人材育成の観点から凄く重要ななと思っている。

その観点からは、水俣の研究所のメンバーも入っていただき、かつ、個人的な希望としては、個々の大学が核となっていくことは難しくても、K S L構想の一環として行っていけば、コンソとしてもマッチするし、様々なアカデミアや研究機関や博物館等を巻き込んで一つのワンチームとして関わることが大学コンソーシアムとしての理想形ではないかなとも思っている。

(意見:熊保大/竹屋) 大学コンソーシアムが中心となって美術館や博物館の学芸員や水俣病センターや恵楓園関連の研究者職員などが一堂に集まって意見交換をするような場所・機会を設けることが必要だと思うので是非検討していただけるとありがたい。

(議長) 化血研が長年、主催している阿蘇シンポジウムというものがあり、感染症に関するシンポジウムなどが開催されているが、それはそれでサイエンスのハイレベルでいいが、阿蘇シンポジウムのもう一つのバージョンで、今言われたようなことのために集まることで何か企画できたら面白いのかなと、今、竹屋先生のご意見を聴いて思った。

(木下) いい街づくりには誰かが核になっているというのがポイントだと思うので、出来るところからやっていく、講演でも申したが「一円融合」と「積生為大」で、まず一步を踏み出すことが大事だと思うので是非一緒になって熊本を盛り上げていくことをお願いしたい。

(3) 次いで議長より以下の発言があった。

冒頭申したように、「高等教育のグランドデザイン」に関しては、この協議会で議論していくことになるが、答申の内容は高等教育機関が取り組むべき事項が大半だが、高大接続に関しても述べられている。具体的な検討や意見交換は次回以降になるが、今回から熊本県教育庁の高等教育課長にも参加いただいております、今後の協議に先立ち、教育委員会又は高等教育課の立場から、各大学又はこのコンソに期待するもの、ご要望、ご意見等があれば、将来の大学のあり方や大学間連携や高大連携、高大接続など幅広い意見や本日の講演の感想でも結構なので、ひと言お願いしたい。

(県教委/重岡) 高校側からも、今、スーパーハイスクール構想ということで、国のスーパーサイエンスハイスクールやS G H (濟々巒高校や水俣高校が指定を受けた) といった、国の研究開発校を受けて、それぞれの研究領域でコンソーシアムを立ち上げているが、それらの熊本県の県立高校をさらに指導助言いただくという形で大学コンソーシアム熊本と今後連携を図りながら進めていければと、今、事務局でも検討している。次回、そういう熊本スーパーハイスクール構想の内容について説明させていただければと考えている。

(議長) 本日の「令和3年度 第2回教育のあり方に関する協議会」は以上で終了する。来年1月頃には第3回を開催の予定なので、引き続きよろしくをお願いしたい。

以上